

図書館だより

80

日本語学習コーナーを開設しました!

日本語を学習している人のお手伝いをします

日本語学習資料



日本を知るための資料



日本語学習者向けレベル別のよみもの



コーナーは
中央図書館
保谷駅前図書館
ひばりが丘図書館
にあります。

関連講座を実施しました!



令和2年2月8日、日本語学習者を対象とした講座「いっしょに読もうやさしいにほんご!」を実施しました。講座では各自で日本語のレベルに応じたよみものを選んで読み、CDで日本語の読み方を聞いて、選んだ本について感想を話し合いました。「日本語の本を読んでもたら面白かった」「日本の本を読めるいい機会でした」等の感想をいただきました。

他にこんなことも実施しています!



○多くの人に図書館をご利用いただくために…

英語・中国語・韓国語とやさしい日本語で図書館の利用案内をしています。洋書(主に上記3言語)の本を収集しています。

○図書館で色々な国の文化を知ってもらえるように…

多言語でおはなし会を実施し、多言語で書かれた本の展示をします。

8ヶ月ぶりのおはなし会を行いました！

コロナウイルス感染拡大防止対策として、市内全館のおはなし会を中止しておりましたが、10月にひばりが丘図書館と谷戸図書館において、感染防止対策をして試行しました。2月の特別休館以降、実に8ヶ月ぶりの開催となりました。

参加人数を制限した事前申し込み制とし、参加者にはマスクの着用とご自宅での検温をお願いしました。

当日は、読み聞かせをする図書館員と参加者の間にビニールカーテンを吊るし、また、参加者には互いに距離を空けて座ってもらい、大型絵本の読み聞かせと紙芝居の実演を行いました。

通常の形式とは異なりますが久々におはなし会を行い、参加してくれたみなさんが、お話に引き込まれ、楽しんでいる様子にうれしくなりました。

今後も対策をしっかりと行い、状況を見ながら少しずつおはなし会を開催していきます。



絵本のお楽しみ袋、始めました♪

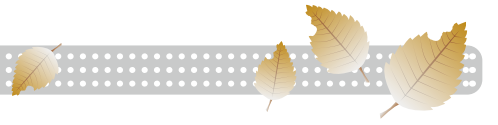
現在図書館では入館制限を実施しており、子どもが気の向くままゆっくりと本を選んだり、親子でのんびり絵本を楽しんだりする風景が、コロナ以前と比べると少なくなっています。

こうした状況の中で、家での読み聞かせや読書を支援し子どもと本との出会いをフォローするため、絵本のお楽しみ袋の貸出をスタートしました。

3～5歳の幼児を対象とした絵本を同テーマで3冊選び、福袋のように中身は開けてからのお楽しみで貸出しています。お楽しみ袋のテーマは、「よるのぼうけん」「ハラハラドキドキ」「たのしいうち」「えをよむ」「おにぎりたべる?」「ひ・み・つ」など…

もし、お近くの図書館で見かけたら、ぜひご利用ください。普段ご自分では選ばない、新しいお子さんのお気に入りが見つかるかもしれません。





ゆかり
西東京市縁講演会
「文学から見た感染症」
を開催しました

令和2年10月17日 谷戸公民館 視聴覚室
講師：石井 正己さん 西東京市在住
東京学芸大学教授 国文学者・民俗学者



講師と受講者の皆様のご理解とご協力のもと、新しい生活様式の中での講演会を初めて実施することができました。

定員を減らし、入場時に体調やマスク着用を確認し、質疑応答は省略、講演中の換気を行い、講師の前にはアクリルのパーテーションボードを立てるなど、新型コロナウイルス感染防止対策を講じての開催でした。これまでと異なる状況でしたが、講演が始まると、お一人お一人が講演のテーマに向き合っており、講師の言葉に集中されていました。

①「正岡子規・石川啄木と結核」

1867(慶応3)年に生まれ、1902(明治35)年に34歳で死去した正岡子規が残した『病牀六尺』と『仰臥漫録』、1886(明治19)年に生まれ、1912(明治45)年に26歳で死去した石川啄木が残した『一握の砂』と明治45年1月19日の「日記」を読み解きながら、当時の結核という感染症禍での人と社会を探りました。

②「与謝野晶子・志賀直哉とスペイン風邪」

1878(明治11)年生まれとの謝野晶子が残した「感冒の床から」(『横浜貿易新報』大正7年11月10日)と「死の恐怖」(『横浜貿易新報』大正9年1月25日)、1883(明治16)年生まれの志賀直哉が残した『流行感冒』を読み解き、死に直面させられるスペイン風邪の恐怖の中での人間と社会を見つめました。

人間のあり方を考える時に、私はデータより文学をはるかに信用している

コロナ禍の3月から感染症の研究を進めたという講師の石井さんは、感染症による死者数をみたとき、「そこには間違いなく一人一人の人生があり、統計的にくくることはできない。」と感じておられ、「人間のあり方を考える時に、私はデータより文学をはるかに信用している。」とおっしゃった言葉には重みがありました。



にんにん西東京



西東京市図書館キャラクター
西都右京くん

第29回 「田無・保谷・西東京の歴代市町村長」

住民が自ら選挙によって町村長を選び、自治が認められるようになったのは明治以降のことです。初代から現在の市長まで、約130年間の歴代市町村長を紹介します。

田無の歴代町長・市長

	氏名	在職期間	備考
田無町	下田太郎右衛門	明治22年(1889)5月21日～明治26年(1893)5月20日	明治12年(1879)6月18日田無村は田無町と改称 明治22年4月1日市制町村制施行
	小山平左衛門	明治26年(1893)6月12日～明治27年(1894)2月27日	
	海老沢政吉	明治27年(1894)5月10日～明治30年(1897)8月8日	
	海老沢三郎兵衛	明治30年(1897)10月23日～明治31年(1898)6月1日	
	浦野議助	明治31年(1898)6月9日～大正15年(1926)12月24日	
	鴨志田五兵衛	昭和2年(1927)2月15日～昭和10年(1935)2月15日	
	下田正一	昭和10年(1935)3月9日～昭和14年(1939)3月8日	
	佐々時達	昭和14年(1939)3月13日～昭和18年(1943)6月3日	昭和17年(1942)5月9日退職、6月2日再度就任
	藤宮長寿郎	昭和18年(1943)7月30日～昭和21年(1946)6月13日	
	下田正一	昭和21年(1946)6月13日～11月15日	
	藤宮義平	昭和21年(1946)11月16日～昭和22年(1947)4月14日	臨時町長就任
	小峰順誉	昭和22年(1947)4月15日～昭和30年(1955)4月30日	
	桜井竹次郎	昭和30年(1955)5月1日～昭和33年(1958)3月25日	
賀陽賢司	昭和33年(1958)4月20日～昭和37年(1962)4月19日		
田無市	指田吾一	昭和37年(1962)4月20日～昭和44年(1969)3月24日	昭和42年(1967)1月1日市制施行田無市となる 初代田無市長
	木部正雄	昭和44年(1969)5月11日～昭和60年(1985)5月10日	
	末木達男	昭和60年(1985)5月11日～平成13年(2001)1月20日	平成13年1月21日田無市保谷市合併

保谷の歴代村長・町長・市長

	氏名	在職期間	備考
保谷村	蓮見安兵衛	明治22年(1889)5月23日～明治22年(1889)6月25日	明治22年4月1日市制町村制施行保谷村となる
	保谷半六	明治22年(1889)7月8日～明治41年(1908)3月25日	明治29年(1896)保谷範書は半六を襲名している。
	平井週作	明治41年(1908)4月7日～明治45年(1912)3月28日	
	都築岩吉	大正4年(1915)6月28日～大正12年(1923)7月9日	
	平井忠男	大正12年(1923)7月17日～昭和10年(1935)7月16日	
保谷町	本橋安太郎	昭和10年(1935)7月17日～昭和17年(1942)12月28日	昭和15年(1940)町制施行保谷町となる 初代保谷町長
	相田文蔵	昭和18年(1943)1月7日～昭和21年(1946)11月25日	
	山本一司	昭和22年(1947)4月5日～昭和24年(1949)7月8日	
	保谷泰蔵	昭和24年(1949)9月5日～昭和27年(1952)5月1日	
	相田文蔵	昭和27年(1952)6月10日～昭和28年(1953)4月30日	
山本浅雄	昭和28年(1953)5月24日～昭和32年(1957)5月23日		
保谷市	原田彰俊	昭和32年(1957)5月24日～昭和43年(1968)12月27日	昭和42年(1967)1月1日市制施行保谷市となる 初代保谷市長
	内藤利紀	昭和44年(1969)1月26日～昭和52年(1977)1月25日	
	都丸哲也	昭和52年(1977)1月26日～平成5年(1993)1月25日	
	保谷高範	平成5年(1993)1月26日～平成13年(2001)1月20日	平成13年1月21日田無市保谷市合併

西東京の歴代市長

	氏名	在職期間	備考
	保谷高範	平成13年(2001)2月18日～平成17年(2005)2月17日	平成13年1月21日西東京市誕生
	坂口光治	平成17年(2005)2月18日～平成25年(2013)2月17日	
	丸山浩一	平成25年(2013)2月18日～	

参考資料：『田無市史 第3巻』『保谷市史 通史編3』『保谷市における選挙管理の概要 昭和57年3月』他

【お詫びと訂正】

図書館だより79号6ページに掲載した「小さなアーティスト」において、内容に誤りがありました。正しくは下記の通りです。大変ご迷惑をおかけし誠に申し訳ございませんでした。深くお詫び申し上げます。今後はこのようなことが起こらぬよう、十分に注意いたします。



宝さがし
向台小学校4年



みんな楽しい動物の山
向台小学校4年

図書館員の本棚

「シンプルだから、贅沢」

ドミニック・ローホー著／原秋子訳
講談社

ISBN:9784062199667



私たちの毎日の生活の中で何か一つに決めなければいけない時に選択肢の多さに驚きませんか？

この本はフランス人の著者が私たちに「シンプルな生き方」を教えてくれる本です。シンプルと言ってもやたらと物を捨てて節約するのではなく、良質で自分に本当にあった物を選ぶことが大切だと言っています。1日+1日が「私たちの人生」になり丁寧な良質な毎日が上質な人生になるのです。そのためにどんな時間を過ごしたいか、何を大事にしていくのか「幸せの秘訣」を教えてください。

また、人生の悩みの最たるものは、人間関係だと言っています。本当は断りたいのに相手の気持ちを考えると『No』とは言えずに小さく『Yes』と言って後悔する事。それが大きなストレスになって

しまいます。その上手な断り方も教えてください。

私はこの本を読んで本当に自分の大切な時間を無駄にしていることを改めて感じ、本当の贅沢とは高価な物をたくさん持つことでもなく、お金をたくさん使う事でもなく自分が満足する心地良い生活なのだということがわかりました。この本は難しい哲学の本ではなく、日常の私たちの生活を見直し、本当に心地良い日々を過ごすことを教えてくれていると思います。

内容は短編でいくつかに分かれていてとても読みやすく、各章に先人の言葉が書き添えられていてそれを読むのも楽しかったです。何度も読み返したい、そばに置いておきたい一冊です。

(図書館員 Y おすすめ)

小さなアーティスト



山に近い街 碧山小学校4年

利用者エッセイ

わたしと図書館

杉山 慶子

今でも建物の外観をはっきり覚えている所がある。私が生まれ育った鳥取市の図書館は、レンガ造りで、入口が尖塔になっていた。

両側は対照的な長い建物が続いていた。縦長の窓ガラスがたくさんあって、木枠の黒っぽさを、今も鮮明に思い出す。中に入ると天井が高く、ひんやりとした空気が漂っていた。

小学生の私には、威圧感があって、古くて立派な建物という印象が強く、本を探して読んだという記憶はあまりない。

小学校低学年ごろまで、母は寝る前に毎晩、本を読んでくれた。本を読んでくれないと眠れない子どもだった。イソップ童話が寓話だと教えてくれたのは母だった。

母は図書館に行って本を借りてきてくれ

たのだろう。家は商売をやっていて忙しかった。唯一自由になる銀行の帰りに図書館に寄って、子どものために時間をさいてくれたと思う。おかげで本好きになった。



文章の中に出てくる「旧・鳥取県立図書館」(実際にはコンクリート製ですが、重厚な風貌からレンガ造りと記憶されている人は多いそうです)。画像はすでに閉館後の1992年に撮影されたものです。旧図書館は解体され、外観を一部復元してわらべ館として1995年に開館、県内外の方に親しまれています。

《写真提供:わらべ館》